LION Lc

会報 No.744

NUMAZU LIONS CLUB
NUMAZU

2016
4

栗原市長、おおいに語る。

2月第2例会（平成28年2月18日㈭）

We Serve

沼津ライオンズクラブ

国際協会モットー	“We Serve”「われわれは奉仕する」
国際テーマ	“命の尊厳と和”
334複合地区スローガン	“心の平和は　健康への第一歩” ～人間から人間へ　心をつなげて～
334-C地区スローガン	“感動の輪を築く同志の輪”
クラブスローガン	『温 故 創 新』

1月 第1例会 新 年 例 会

後藤丸 ―ラストスパートに向けて力強く踏み出す―

1月7日㈭沼津リバーサイドホテルにおいて新年例会が開催されました。本年度スローガンとして掲げられた『温故創新』のクラブ運営・奉仕事業も、いよいよ仕上げ段階となる後期に向けて、後藤会長の年頭挨拶にも熱が籠もり、それを受けてメンバー一同、クラブ活動にも、おのおの事業にも一層の飛躍を誓い合って、新年のスタートを飾るのにふさわしい明るく楽しい例会となりました。

▲年頭の挨拶をする後藤会長

年男（申）

L.足立吉松（1932.3.9生）
L.乾　精治（1944.9.3生）
L.細沼信二（1956.1.14生）
L.杉山由博（1956.6.22生）
L.石原敏行（1968.1.23生）
L.伊籐健一（1968.9.17生）

MJF献金者

L.横山　業（14回目）　L.服部行眞（11回目）　L.足立吉松（9回目）
L.大古田一郎（9回目）　L.乾　精治（4回目）　L.森　幹生（4回目）
L.土屋達郎（4回目）　L.赤堀肇紀（4回目）　L.後藤行宏（3回目）
L.柏木雅博（1回目）

L.村林照夫（分割献金）
L.大川祐輝（分割献金）
L.清水英一郎（分割献金）

古稀

L.大古田一郎（1946.6.3生）
L.村林照夫（1946.9.17生）

ライオンズは楽し!! 和やかな新年の宴

▲新年にふさわしく升酒で乾杯
威勢よく杵をつく後藤会長▶
L.加藤明子との息もピッタリ!!

新春ダーツでスピーチ大会

ダーツの矢が当たったテーマで即興のスピーチ。ほぼ全員のメンバーが制限時間内に楽しくて見事なスピーチをしてくれました。

L. 勧山と沼津ライオンズクラブが牽引（けんいん）するアイバンク運動

―沼津朝日新年号１面に特集される―

沼津朝日 2016年（平成28年）1月1日（金曜日） 第18841号 （日刊）

沼津朝日

沼津朝日新聞社 〒410-0888 沼津市末広町34 ☎962-4840 FAX962-4590 URL numaasa.com 1ヵ月 730円・1部 40円

賀正
積極的な行動あるところに発展がある
沼津商工会議所
会頭 市川厚
沼津市米山町六―五 ☎（〇五五）九二一―一〇〇〇

「持てるもの 人のために」

沼津のアイバンク運動 新たな半世紀へ

献眼は人間再生、復活の聖行

運動の先導続ける勤山弘師に聴く

沼津ライオンズクラブを中心に、全国のライオンズクラブに活動の輪が広まったアイバンク運動。その先頭に立ち、運動を牽引してきたのが末広町の浄土真宗眞楽寺前住職で、沼津ライオンズクラブ終身会員の勤山弘師(96)。NPO法人日本アイバンク運動推進協議会最高顧問を務め、「持てるもの人のために」と、各地での講演会などを通じ献眼の意義を訴え続ける。昨年は、アイバンク運動を通じた社会貢献活動に対し、春の叙勲で「旭日双光章」を受章した。アイバンク運動開始から半世紀が過ぎ、改めて勤山師にアイバンク運動について話を聴いた。

運動とは載せて運び、動くこと

説く人の努力、勉強が大切

「アイバンク運動」は大正十四年（一九二五）、米国オハイオ州で開かれたライオンズ第9回国際大会でヘレン・ケラー女史が「私のような不幸な人間が二度と再び、この世に現れないように、失明の予防と盲人の援護を」と訴えたのがきっかけで始まった。

その後、ライオンズクラブが中心となって視覚障害者用の「白い杖」を世界に普及させ、盲導犬を育成訓練。昭和十九年（一九四四）にはニューヨーク市に世界で初めてのアイバンクが設立された。

日本では、昭和二十七年（一九五二）に初めて東京でライオンズクラブが結成され、三十三年（一九五八）に視覚障害者の視力回復を目的とした、眼球を摘出するための「角膜移植に関する法律」が公布され、三十八年（一九六三）、亡くなった人から眼球の提供を受け、角膜移植待機患者に斡旋する日本初の「アイバンク」が慶應義塾と順天堂の両大学病院に設立された。

勤山師が初めて献眼を知ったのは、昭和三十九年（一九六四）七月五日。志下の檀家で通夜を済ませて帰ろうとした時、これから医者が来るという。「坊主が帰った後に、なぜ医者が来るのか。逆なら分かるが」と疑問に感じた勤山師は、故人が生前、献眼登録をしていたことなどを息子から聴き、眼球摘出の現場に立ち会わせてもらうことになった。

当時は、新幹線の開通前だったことから、東京の慶應義塾大学病院の医師がタクシーで沼津に向かい、五時間をかけて午後十時頃に到着。眼球を摘出すると、二人の失明者に一眼ずつの角膜移植手術をするため、息つく暇もなく、すぐさま引き返すまでの一部始終を見て、アイバンク運動を知ることになった。

勤山師は昭和十九年、二十四歳の時に出征し、三重県の津の連隊に配属され、中国山西省で行動中、アキレス腱を切断する重傷を負い、戦線を離脱。この時の仲間は、その後、沖縄に転進して全員が玉砕しており、けがをしたがために助かった勤山師は「目に見えない大きな力が私を助けた。この後の人生を社会に捧げなければ」と考えるようになった。

常日頃、そうした思いを持ち続ける中で知ったアイバンク運動に感動。「亡くなった人の眼球を摘出し、片目ずつ失明者に移植することで二人の眼に光が戻る。世知辛い世の中にあって、一円のお金の受け渡しもない素晴らしい取り組み。私はこの運動をやろう」と、決意した。

叙勲記念に沼津ライオンズクラブから贈られた石碑と勤山師。「持てるもの 人のために」が刻まれている

しかし、「一人の力は微々たるもの」と、所属する沼津ライオンズクラブでこの経験を話し、クラブとしてアイバンク運動に取り組むよう持ち掛けたが、会員の多くは「死んだ人の角膜で目が見えるようになるものか」と半信半疑。

当時四十代の若手だった勤山師の話に、なかなか耳を貸してもらえなかったが、会長経験もあった大古田昇氏（故人）から「取り上げてみたらどうか」と後押しがあり、社会奉仕活動としてスタートした。

まず勤山師ら家族三人が献眼登録を済ませ、市民に献眼登録を呼び掛けたが、「坊主が遺体にメスを入れろとは何事か」「目が見えなければ三途の川を渡れない。先祖にも会えなくなる」などと言われ、「これが坊主のやることか」と批判を浴びることに。

勤山師は「何度も辞めようかと思うこともあった」というが、京都西本願寺出身の歌人で、仏教婦人会の名誉会長として知られる九條武子の歌集に、「百人（ももたり）のわれにそしりの火は降るも 一人の人の涙にぞ足る」という歌を見て、「百人が非難したとしても、一人の失明者に光を取り戻すことで、涙を流して喜んでもらえれば、それでいいじゃないか」と思い直し、途中で放棄することなく初心を貫徹。

その後、半年間で沼津ライオンズクラブの運動を通じた献眼登録者数は百人を超え、四十三年（一九六八）には沼津から角膜移植を受けた開眼者第一号を出した。

さらに、四十六年（一九七一）には全国のライオンズクラブ会員を対象にした第1回アイバンク運動全国大会を八幡町にあった沼津市公会堂で開き、北海道札幌市から長崎県佐世保市まで百六十三クラブから約千人のメンバーが参加した。

昼食時には弁当と共にタオルを配り、全員に目隠しをして弁当を食べてもらうと、「弁当に手が出せない」「何を食べているのか分からず、味もよく分からない」との感想。「目が見えるということが、どれだけありがたく、幸せなことかが知ってもらえたと思う」とアイバンク運動の意義を唱え、「日本における失明者に我らライオンズの手によって光を与えよう。それは決して不可能ではない。あなた自身の『WE SERVE』の決意にかかっている」と、大会決議をした。

（左上へ）

全国大会を通して、岡山県の倉敷ライオンズクラブなど、アイバンク運動の先進クラブがあることを知った勤山師は、後日、同市のクラブを訪ね、「献眼運動は一朝一夕にできるものではない。献眼登録しても、実際に献眼するのは何年先になるか分からない。全国大会を各地で繰り返し開くことで全国運動になる。ぜひ第2回大会を倉敷市で開いてほしい」と要望。

同クラブの了解を得て翌年は倉敷市で、同市の文化センター完成に合わせて第2回アイバンク運動全国大会が開かれ、約二千人が参加。以来、各地のライオンズクラブが周年行事などに合わせて全国大会を開くようになり、昨年十月に四日市市で開かれた全国大会で三十八回を数えた。勤山師は毎回参加し、講師を務めている。

その後も地道な活動を続けた勤山師は日本のアイバンク運動推進を牽引。亡くなった人の三分の二が献眼するという献眼先進国スリランカのアイバンク関係者とも交流を続け、五十四年（一九七九）には当時の首相から「国際児童年」に合わせて二百眼が日本に無償提供され、日本の百二十一人の子ども達が視力を回復した。

アイバンク運動推進の輪は中国にも拡大。「黄砂で角膜が傷つくことによる失明者が多い」と聞き、静岡県と友好提携を結ぶ中国浙江省に、当時の県知事の紹介状を手に出向き、アイバンクの意義と設立を訴え、平成二年（一九九〇）に中国初のアイバンクが設立される原動力となり、日中友好の架け橋に。その後、アイバンク運動は中国に広がり、鄧小平元国家主席も献眼した。

こうした功績が認められ、二十一年（二〇〇九）には、健全な社会と地域社会、国民のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献した人を称え、ジョンソン・エンド・ジョンソングループと社団法人日本看護協会が十六年（二〇〇四）に創設した「ヘルシー・ソサエティ賞」のボランティア部門（国際）で表彰を受けた。

その受賞式の席上、臨席された皇太子殿下から「他人を思いやり、社会に貢献する活動が、さらに広がることを希望します」と、お声をかけられた。

勤山師は「つくづく思うのは、この世の中、思いやりがいかに大切か。仏教では他者への思いやり、それに基づく行為は『心慮施（しんりょせ）』という、人間として行うべき施しの一種。私自身人の『なさけ』と世の中の温もりで九十六年間生きてきた。なんともありがたい次第」と話す。

また、日本アイバンク協会が二十一年に創設した、国内の角膜移植医療実践及びアイバンク活動の推進に著しい貢献をした人や団体を表彰する第1回の「今泉賞」を個人の部で受賞した。

同年、第32回アイバンク運動全国大会を沼津で開き、沼津地区五ライオンズクラブが千本浜公園に献眼慰霊碑を建立＝写真。

昨年春の叙勲で受けた「旭日双光章」は一般推薦によるもので、アイバンク運動での叙勲も初めてのことだった。

勤山師は「私個人ではなく、アイバンク運動自体に光が当てられたことに叙勲の意義がある。沼津という日本の一角から始まったアイバンク運動が全国運動に伸びて、拡がった。沼津のライオンズクラブ五クラブが結束してバックアップしてきたことが原動力になった」と話す。

◇

献眼登録はライオンズクラブで受け付けているが、生前登録がなくても、死後十二時間以内に医師による眼球摘出が可能であれば、遺族の申し出により献眼することができ、年齢制限もない。近眼や老眼でも角膜は移植でき、網膜などの疾患で目の不自由な人の角膜でも移植できる。

摘出した眼球は保存液に浸すことで一定期間の保存が可能となり、市内の移送ボランティアが、角膜移植を必要とする患者がいる病院に届ける。

献眼の申し出は常時受け付け、平日の午前十時から午後四時までは沼津地区ライオンズクラブ合同事務局（電話九六三―〇二五〇）で。それ以外の時間帯は市消防通信指令室（電話九三三―〇一一九。今月二十六日以降は電話番号が変更となる）で受け付けている。

感銘で終わらず実践を

持論磨き、説得力鍛え、同感の輪を拡げる

「アイバンク運動は、死んでから角膜を提供することで、失明者二人に片目ずつ光が戻る。それを聴いた人が『なるほどな。それは良いことだ』と思うだけではダメ。『ならば私も献眼登録しましょう』と動き、親しい人にも働きかけるようにならなければ運動にならない」と勤山師。

明治時代に活躍し、シェークスピア全集を翻訳した英文学者、坪内逍遥の「感銘せしむるよりも実践せしめよ」という言葉を挙げ、「頭で分かっただけでは大したことない。行動まで行って初めて運動になる」とし、「仏教では『運は乗載の義』。載せて運び、動くことこそが運動」だと説く。

そして、「運動」を進めるためには「説く人」の努力も必要で、「まずは持論を磨き、説得力を鍛え、同感の輪を拡げる。リーダーには、この三つが必要で、そのためには普段からの勉強が大事」だとした。

現在、全国で約二万五千人、角膜移植によって光を取り戻すことができる失明者が移植手術を受けるために待機している。これに対して年間の献眼は全国で約千人。約千六百人が光を取り戻すが、一方で、ほぼ同数の失明者が毎年新たに出るため、勤山師は「献眼者数を年二千人に増やさなければ、待機者の絶対数は減らない」という。

しかし、「献眼の現状報告なら誰にでもできる。厚生労働省の報告書を読めば分かること。相手を感銘させるだけでなく、実践させるまでできる人は、ほとんどいない」のが現状。

日本のアイバンク運動を半世紀にわたり牽引し、その歴史の全てを知る勤山師に代わる後継者となると難しいが、「後ろを向いちゃいけない。前を向いて走るためには莫大な勉強が必要になるが、知識よりも感銘、感銘よりも実践が大事」ときっぱり。

現在、沼津市をはじめとする静岡県の献眼者数は年に百三十人から百六十人、全国の年間献眼者約千人の一割強を占める。かつてアイバンク運動に活気があった都市でも旗振り役を失って活動が停滞するケースもあり、「こんなことじゃダメだ」と憂い、「お釈迦さまが『現状を憂えること無きは、誠の善に非ず』と二千五百年前に言っている。いかに善い行いをしたからといって、今、現実の人が苦しんでいるのを見捨てるのでは何にもならない。本当の善は、今苦しんでいる人を助けること」だと強調。

「人が人を助けることは何も難しいことではない。献眼は八十年、九十年使い、亡くなって御用済みになった角膜を提供するだけで、二人の失明者の目が開く。ないものを出せと言っても、それは無理だが、あるものを出すだけならできる」とし、「持てるもの人のために」と訴える。

人は死ぬと肉体は滅びるが、体の一部である厚さ〇・五㍉の角膜は移植されることで二人の失明者の目に光を回復し、その後も何十年も生きて世の中を見続ける。

「人間が限りある人生を終わったとき、人々の心に何かを遺していけば、それは死ではない」

千本浜公園に建立された献眼慰霊碑の正面右側にある芳名庫にも、勤山師が揮毫した、この言葉が刻まれている。

富士山と、韮山の反射炉が世界文化遺産としてユネスコの認定を受けたが、「献眼運動も人類の遺産として尊いもの。この人間再生、人間復活の聖行こそ、全人類の遺産を生かす運動と言うにふさわしい」とし、「七十億人が皆、持っている角膜を提供する献眼の大きな意義を、もう一度考えて頂きたい」と、新たな年を迎えての大きな願いとしている。

奉仕の歴史を奉仕で祝う 100周年記念奉仕チャレンジ

2年後に迫った国際協会創設100周年のテーマは「ニーズのあるところに、ライオンズがいる」。地域のニーズに応えるアクティビティで、100周年祭を祝う記念奉仕にチャレンジ。

・YOUTH（青少年）　・VISION（視力）

・HUNGER（食料支援）　・ENVIRONMENT（環境）

1月 第2例会 2015～2016年度前期決算報告・監査報告

1月21日㈭沼津リバーサイドホテルで行われた1月第2例会では、会計L.杉山由博による2015～2016年度前期決算報告および監査委員L.竹村喜次による監査報告があり、前期決算が無事承認されました。また、新会員L.杉山純哉、L.加藤明子によるメンバースピーチもありました。

▲監査報告をするL.竹村

▲メンバースピーチをするL.加藤(明)とL.杉山(純)

▲1月誕生月のメンバーによるローア、おめでとうございます

2月 第1例会 出席委員会担当例会

2月4日㈭沼津リバーサイドホテルにおいて出席委員会担当による2月第1例会が行われました。講師に沼津上本通り商店街理事の長谷川徹様をお迎えして『沼津商業界戦後昭和史』と題してご講演いただきました。みずから上本通り商店街において店舗を営まれている講師は、平成25年1月31日の西武沼津店閉店を機に昭和の沼津商業(商店街)の終焉を強く感じ、今のうちに沼津の戦後商業史をまとめておかないと沼津の商店街の興亡の痕跡すら残らないと危機感を募らせるとともに、これを発信することによって次の世代が平成の沼津商業史を引き継いでくれることを期待して、地道に、そして丹念に、この資料史をまとめられました。大空襲で焼け野原となりながらも逞しく建ち上った戦後の沼津市の商店街は、めざましい発展をとげ、静岡県東部随一の商都として繁栄をきわめました。しかし、現在は御多分にもれず、全国の地方都市同様、商店街は精彩を欠いているのは事実です。しかし、沼津の街を愛し、熱く熱く語られる講師の姿を見ていると、沼津商人のパワーとポテンシャルのDNAは沼津の次代を担う若い世代にも引き継がれ復活を期待させてくれるような講演でありました。

▲講師を紹介する担当委員長のL.芦澤

▲講師の長谷川氏、まさに戦後沼津の商業史の生き字引である

2月 第2例会 GMT・GLT委員会担当例会

2月18日㈭沼津リバーサイドホテルにおいてGMT・GLT（会員）委員会の担当で2月第1例会が開催されました。

例会に先立ち2016～2017年度役員候補指名会が行われ、例会において指名委員会委員長L.森幹生より次年度クラブ役員候補者が発表され慎重審議の末、次期クラブ役員が承認されました。

さて、今回の例会の講師としてお迎えした栗原裕康沼津市長は会員委員長L.前田利定の同級生でもあり、昨年の例会においても講師をお願いしてあったのが、当日、議会の審議延長という突発事態によってキャンセルとなり、今回、お忙しい公務の中を縫って、駆け付けていただき、ようやく実現したものであります。

『沼津市のまちづくり』をテーマとした講演の内容は多岐にわたり、「県東部一の魅力ある街＝沼津」を目標に掲げる市長は、懇切、丁寧にわかりやすい語り口で、沼津市の現状についてお話ししてくれました。

現在、沼津市は人口減少という大きな問題に直面しており、昨年の国政調査では人口19万5千人と20万人を大きく割り込み、出生率も県平均を下回る1.46。加えて、東日本大震災後の誇大とも思われる津波被害のイメージ悪化により人口流出が続いているとのこと。このまま人口減少に歯止めがかからなければ、他の地方都市同様に中心市街地を中心に衰退していくのは目に見えており、成長エンジンとしての人口増加対策が喫緊の課題のようです。

◀講演をする栗原市長

しかし、「沼津は大鍋の底で掘り返せば、まだまだ、いろいろな物が出てくる」とも述べられ、沼津が持つポテンシャルについても語られられました。

ハード面では①鉄道高架の早期実現による跡地スペースの有効利用、②都市計画道路沼津・三島線により新幹線三島駅により近くなるという利便性の向上、③スマートインターチェンジによる利便性向上。

ソフト面では①中央公園や狩野川階段堤でのイベント開催による若者中心の賑わいの兆し、②高校を中心として学校が多いことによる昼間人口の多さ、③インバウンドや深海魚水族館などを中心とした港周辺の賑わいと入れ込み人口の増加、④災い転じて福となすではないが、「高尾山古墳」が東日本最古級の前方後方墳として国の史跡指定を受ける可能性があり、これを沼津の誇りとしてPRしたい…等々、いくつかの好材料を上げられました。

いずれにせよ●トップ（市長）の高い理想と迅速な決断力、●市職員の意識改革、●市民の市政への関心と積極的参加など、三者すべてが当事者意識を持つことにより、「沼津市の衰退」を全体の問題として捉え、手を携えて対処していかなくてはならないと感じた講演でありました。

2016～2017年度クラブ役員予定者

会長	L. 村林　照夫
前会長	L. 後藤　行宏
第一副会長	L. 大川　祐輝
第二副会長	L. 小原　嘉弘
幹事	L. 小林　龍司
会計	L. 井上　孝喜
ライオン・テーマ	L. 橋本　賢一
テール・ツイスター	L. 清水英一郎
会員理事	L. 赤堀　肇紀
2年理事	L. 野田金次郎
2年理事	L. 名取　正純
1年理事	L. 芹澤　明寛
1年理事	L. 柏木　雅博
監査委員	L. 市川　洋一
監査委員	L. 杉山　由博

▲指名を受けて挨拶する2016～2017年度会長予定者L.村林照夫

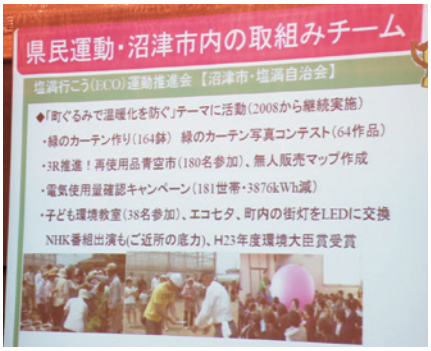
▲担当委員長L.前田と指名委員長L.森によるローア

3月 第1例会 環境保全委員会担当例会

3月3日㈭ホテル沼津キャッスルにおいて環境保全委員会の担当で3月第1例会が開催されました。静岡県地球温暖化防止活動推進センターのゼネラルマネージャー服部乃利子様を講師としてお迎えし、『地球温暖化と私たちのくらし』というテーマで、大きなスクリーンを利用して、わかりやすく、楽しく講演していただきました。CO_2を含む温室効果ガスの増加で地球の平均気温が上昇する地球温暖化現象。過去132年間で平均地上気温は0.85℃上昇し、このままCO_2を排出し続けると今世紀末までには最大4.8℃上昇して、世界の平均海面水位は1986～2005年と比較して26～8㎝も上昇することが予測されるそうです。このような地球温暖化の進行は異常気象・生態系の破壊・農作物への影響・健康被害など、深刻な弊害をもたらすため、産業部門を含めて全世界的に取り組まなければならない問題なのですが、家庭部門での日常的な省エネのためのエコ活動もきわめて重要なようです。冷蔵庫を長く開け放たない、照明器具はこまめに消す、テレビ画面の明るさを落とす（ダイナミックモード→スタンダードモード）、水道の水を出しっ放しにしない、車はゆっくりスタートするなど日々の暮らしの中で実践すべきことを指摘していただきました。

なお、当夜は三島ライオンズクラブより会長L.髙橋邦夫、幹事L.鈴木啓之、会計L.芹澤学、4R2Z前ZCL.前田磨の4ライオンが例会訪問としてお越しになられました。

▲講師の服部乃利子様



▲沼津市・塩満自治会のエコ運動も紹介されました

▲三島ライオンズクラブより4ライオンが例会訪問

3月 第2例会 YCE委員会担当例会

3月17日㈭沼津リバーサイドホテルにおいてYCE委員会の担当で3月第2例会が行われました。講師に中国国際放送局（北京放送）勤務の髙橋恵子様をお迎えし、『中国の今』というテーマで講演していただきました。髙橋恵子さんは沼津市の出身で、担当委員長のL.土井宣博やL.服部巌一郎の同級生。現在、北京放送の日本語部でラジオ番組制作、出演、指導、ニュース原稿チェックなどにあたられています。最近の日本のマスコミでは、中国の軍事・外交・経済・環境など、なにやらきな臭い報道が多く、また中国における反日感情の高まりも感じてしまうのですが、髙橋さんのお話しされる中国の市民生活を中心とした話題は、素顔の中国および中国人の一面を知ることができ、たいへん興味深いものがあり、真の友好と相互理解には民間交流が不可欠であると感じさせるものでした。

▲にこやかに講演していただいた高橋恵子様

なお、この例会をもって退会されるL.齋藤研一よりお礼とお別れのスピーチがありました。

▲鎖骨骨折の重症にもかかわらず担当委員長としての任を果たしたL.土井

▲L.斎藤、いろいろとお世話になりました。ありがとうございます

沼津ライオンズクラブ麻雀大会開催される

―沼津ライオンズクラブ選りすぐりの新旧精鋭雀士が集結―

2月13日㈯14:00より沼津ライオンズクラブ麻雀大会が雀荘クーロンにおいて開催され、13名の会員・元会員が参加しました。クラブ内の麻雀大会は久しく開催されておらず、ベテラン会員・若手会員の交流・親睦を深めるためにも久しぶりに卓を囲んでみようという後藤会長の発案で実施されたものです。我こそはという腕自慢の名(迷?)雀士による熱戦がくりひろげられ、おおいに盛りあがり楽しい麻雀大会となりました。

優勝
L．服部行眞

準優勝
L．市川洋一

第2回NPO法人沼津体育協会会長杯
学童軟式野球大会

開会式 3月6日㈰
決勝戦・閉会式 3月26日㈯
（沼津市営球場）

優　勝 開北リトルイーグルス
準優勝 第一キッドスターズ

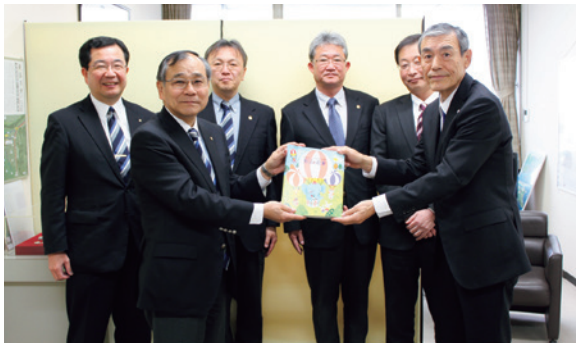
▲優勝チームへ後藤会長よりライオンズカップ授与

▲開会式

▲沼津ライオンズカップ

「童話の花束」を沼津市に贈呈

3月11日㈮後藤会長、柏木幹事、L.服部喜和（青少年委員会）、L.後藤弘知（PR情報委員会）が沼津市教育長室を訪問し、沼津市教育長 工藤達朗様に「童話の花束」400冊を贈呈しました。これはJX日鉱日石エネルギー㈱が主催する「心のふれあい」をテーマとした童話コンクールの優秀作品を掲載した絵本童話集で、こどもたちの豊かな心と読書習慣を育てるために当クラブが継続的に実施している事業です。なお、本書の贈呈にあたっては、毎年、L.土屋英治にご協力いただいております。



1月 2016

第1例会 平成28年1月7日㈭18:30　新年例会　於：沼津リバーサイドホテル
幹事報告（総員67名　出席56名　欠席11名　出席率83.6%）

12月22日㈫　12月第2役員会
12月25日㈮　2015～2016年度　指名委員会（第1回）　指名委員、会長、幹事出席
12月25日㈮　鈴木数子様（L.鈴木善之助の奥様）ご逝去　尊い献眼をして頂きました　L.清水　立会
12月27日㈰　故 鈴木数子様（L.鈴木善之助の奥様）通夜式　献眼感謝状の贈呈
12月28日㈪　故 鈴木数子様（L.鈴木善之助の奥様）告別式
1月 6日㈬　前期会計監査　会長、幹事、会計、監査委員出席

第2例会 平成28年1月21日㈭18:30　於：沼津リバーサイドホテル
幹事報告（総員67名　出席54名　欠席13名　出席率80.6%）

1月 8日㈮　5LC会計の引継ぎ　幹事出席
1月 8日㈮　5LC幹事会　幹事出席
1月 8日㈮　5LC三役新年会　会長、幹事、会計出席
1月11日㈪　平成28年沼津市消防出初式　会長出席
1月12日㈫　1月第1役員会
1月13日㈬　LC100周年記念事業5LC検討委員会（第3回）　L.森、L.小原出席
1月19日㈫　第2回名誉顧問会議　L.土屋誠司出席

2月 2016

第1例会 平成28年2月4日㈭18:30　於：沼津リバーサイドホテル
幹事報告（総員67名　出席63名　欠席4名　出席率94%）

1月26日㈫　334-C地区今年度会計中間監査　L.竹村出席
1月26日㈫　1月第2役員会
1月30日㈯　計画大会委員会
2月 2日㈫　5LC幹事会　幹事出席
2月 2日㈫　1ゾーン5LC親睦ゴルフ大会打合せ　L.大川出席
2月 4日㈭　第3回指名委員会　指名委員、会長、幹事出席

第2例会 平成28年2月18日㈭18:30　於：沼津リバーサイドホテル
幹事報告（総員67名　出席57名　欠席10名　出席率85.1%）

2月 8日㈪　5LC事務局就業規則検討委員会（第3回）　L.石原出席
2月 9日㈫　ゾーンGMT・GLT委員長会議　L.前田、会長出席
2月 9日㈫　2月第1役員会
2月10日㈬　沼津5LC　100周年記念奉仕チャレンジ事業準備委員会（第4回）　L.森、L.小原出席
2月12日㈮　環境保全委員会　環境保全委員会メンバー出席
2月13日㈯　沼津LC麻雀大会　参加者13名
2月16日㈫　沼津千本LCと交流例会打合せ（4月第1例会）　L.塩崎、幹事出席
2月17日㈬　ライオンズ育成グループ第3回研修会　L.小林（龍）出席
2月18日㈭　指名会

3月 2016

第1例会 平成28年3月3日㈭18:30　於：ホテル沼津キャッスル
幹事報告（総員67名　出席56名　欠席11名　出席率83.6%）

2月23日㈫　第3回キャビネット会議　L.竹村出席
2月24日㈬　臨時名誉顧問会議　L.土屋（誠）出席
3月 2日㈬　第3回ガバナー諮問委員会　会長、幹事出席
3月 2日㈬　5LC会長会　会長出席
　　5LC幹事会（第9回）　幹事出席

第2例会 平成28年3月17日㈭18:30　於：沼津リバーサイドホテル
幹事報告（総員67名　出席58名　欠席9名　出席率86.6%）

3月 6日㈰　第2回NPO法人沼津体育協会会長杯学童野球大会開会式
　　会長、第一副会長、L.小林（龍）、L.服部（喜）、L.徳田出席
3月 8日㈫　3月第1役員会
3月 9日㈬　環境保全委員会
3月11日㈮　沼津市へ童話集贈呈式　会長、幹事、L.服部（喜）、L.後藤（弘）出席
3月15日㈫　沼津LCと沼津千本LCの交流例会打合せ　幹事、L.塩崎、〈千本LC〉L.坂倉、L.原出席
3月16日㈬　第5回沼津5LC100周年記念奉仕チャレンジ事業準備委員会　L.森、L.小原出席
3月16日㈬　故 土屋とよ様（L.土屋達郎のご母堂様）通夜
3月17日㈭　故 土屋とよ様（L.土屋達郎のご母堂様）告別式

1月度ドネーション

【ドネーション】

L.鈴木邦介	昨年度チケット残の寄付
L.前田利定	ネクタイ忘れたため
L.伊籐健一	年男
L.土屋達郎	ダーツで後藤会長の写真に当ててしまったため
L.赤堀肇紀	テールツイスターご苦労様
L.村林照夫	古希
L.大古田一郎	古希
L.北村清一郎	誕生日：53歳（1月6日）
L.森　幹生	ゴルフ部12月例会優勝
L.後藤行宏	前期終了
L.名取正純	誕生日
L.乾　精治	年男
L.石原敏行	年男
L.足立吉松	年男
L.杉山由博	年男
L.鈴木善之助	会葬御礼
L.土屋恭博	快気御礼
L.北村清一郎	三女成人式
L.齊藤研一	誕生日
L.原川達也	誕生日
L.杉山由博	前期決算報告承認
L.市川洋一	誕生日
L.塩崎享一	ご子息成人
全会員より	新年例会　会員チケットより（@1000×66名）

計　216,500円
【ファイン】‥‥‥‥計　0円

合計 216,500円

2月度ドネーション

【ドネーション】

L.大川祐輝	誕生日
L.森　幹生	ご結婚44周年
L.赤堀肇紀	三信企業大賞　ものづくり部門最優秀賞
L.森本耕太郎	法律事務所の経営主体に就任
L.土屋恭博	三島オートガススタンド仮オープン
L.森　幹生	ゴルフ1月優勝
L.服部行眞	マージャン大会優勝
L.市川洋一	マージャン大会準優勝
L.榊原　晃	会社イベント成功
L.竹村喜次	母校明大野球部あしたか球場合宿で挨拶、力水贈呈
L.土屋恭博	誕生日
L.柏木雅博	誕生日
L.池田宏明	誕生日
L.土井宣博	結婚記念日
L.徳田和人	結婚記念日
L.大川祐輝	海老名市への有意義な視察研修終了
L.清水英一郎	海老名市への有意義な視察研修終了
L.芦澤剛彦	海老名市への有意義な視察研修終了

計　23,000円
【ファイン】‥‥‥‥計　0円

合計 23,000円

3月度ドネーション

【ドネーション】

L.土屋英治	新店舗・駿河ONEを開業
L.野田金次郎	結婚記念日
L.森　幹生	ゴルフ12月優勝（ドネーション忘れ）
L.前田利定	ゴルフ2月優勝
L.清水英一郎	ゴルフ2月準優勝
L.土井宣博	沼津スイーツラン・スイーツフェスタ無事終了
L.小林龍司	新居購入、入籍
L.木村幸男	3月第一例会大成功
L.市川洋一	結婚記念日
L.大川祐輝	結婚3周年
L.橋本賢一	誕生日
L.足立吉松	誕生日

計　27,000円
【ファイン】‥‥‥‥計　0円

合計 27,000円

2016年（平成28年）4月21日発行〈744号〉

沼津ライオンズクラブ

334C-3R1Z
http://www.numazu-lionsclub.jp.

事務局　沼津市添地町128 クインテットビル3F
☎055-963-0250　FAX055-962-5939

例会場　沼津市上土町100-1 沼津リバーサイドホテル
☎055-952-2411　【例会日：第1・3木曜日】

●会長／L.後藤　行宏　●PR情報委員長／L.徳田　和人　●印刷／不二印刷株式会社